

# ありがたや 離れていても 同室感

—ユーザの座席配置が遠隔協調作業に及ぼす影響について—

## どんな研究？

- 遠隔地の人を投影するディスプレイの配置場所（すなわち遠隔地間の座席配置）を変えると、遠隔コミュニケーションのパターンが変わります。

## もたらされる変革

- t-Roomでは座席配置を変えるだけで遠隔コミュニケーションにおける対話パターンや議論の合意度を操作することができます。
- 新規にビデオ会議システムを設置する場合の設計指針の提示。

## 背景

- 対面実環境：** 座席配置によって、話者交代や一体感が左右されます。
- 従来のテレビ会議システム：** 座席配置の自由度がありません。
- t-Room：** 座席配置の自由度があり、人が移動するだけで様々な座席配置が可能です。

## 比較実験

実験目的：遠隔地間で座席配置を変えることによる効果を検証。

### 実験概要：

各座席配置について4名でグループ課題を解きます。

### グループ課題：

合意形成(砂漠生き残り問題)

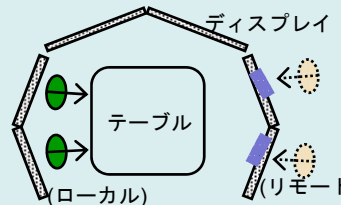
### 参加者数：

9グループ(36名)

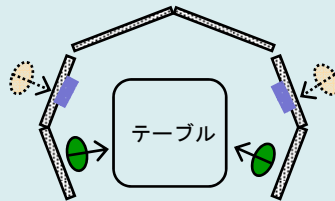
### 手順：

- 個別に課題を解きます。
- グループで合意形成。
- 再び個別に課題を解きます。

### 座席配置A (遠隔対向型)



### 座席配置B (遠隔隣接型)



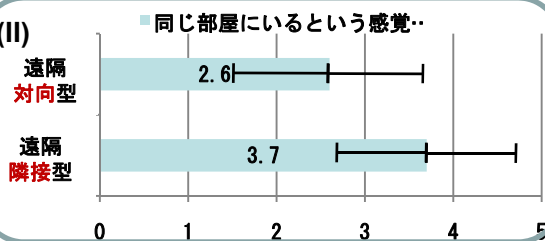
## 実験結果

遠隔隣接型は、遠隔対向型よりも

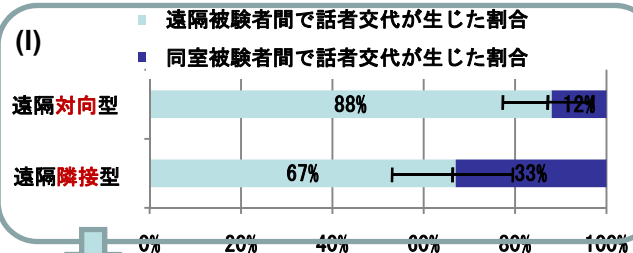
- (I) 話者交代が均等化
- (II) 遠隔地間の一体感が向上
- (III) 議論に対する合意度が向上

→ 同室感の向上

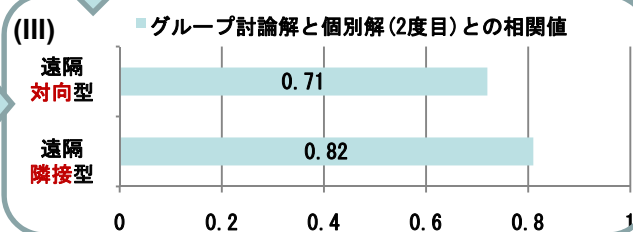
### (II)



### (I)



### (III)



## 関連文献

Naomi Yamashita, Keiji Hirata, Shigemi Aoyagi, Hideaki Kuzuoka, Yasunori Harada, "Impact of Seating Positions on Group Video Communication," Proceedings of ACM Conference on Computer-Supported Collaborative Work (CSCW'08), pp.177-186, 2008.

連絡先: Hirata Keiji & Naomi Yamashita

メディア情報研究部 コミュニケーション環境研究グループ